

「埼玉の城郭とその歴史」

I 総論

1. 城の概要

○ 城のイメージ

近世： 天守・石垣・水堀

中世： 櫓・土塁・空堀 代表的復元遺構：逆井城（茨城県坂東市逆井）

○ 中世の城（城館）武士の館が城の原型。

○ さらに戦闘機能を高め館の集合体としての城館、城郭へと移行。

2. 埼玉の城郭

○ 数と分布 『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会（1988年発刊）679箇所

○ 地形 多くの場合は、台地の縁や山麓に館を構える

○ 築城年代別

○ 江戸時代に残った城郭 川越城 忍城 岩槻城

○ 陣屋について 伊奈陣屋（伊奈町）・赤山城（川口市）

3. 指定史跡

○ 国指定史跡

・ 鉢形城：昭和7年指定 ・ 河越館：昭和59年指定

・ 比企城館跡群（菅谷館、松山城、杉山城、小倉城）：平成20年指定
（但し、菅谷館は昭和48年に単体で国指定史跡になっている）。

○ 日本100名城

・ 鉢形城 ・ 川越城 （公益財団法人日本城郭協会：平成18年選定）

・ 忍城（同協会より 平成29年、続100名城に選定）

II 埼玉の主な城郭

1. 松山城

所在地 比企郡吉見町大字南吉見字城山・北吉見字根古屋

交通 東武東上線東松山駅からバスで5分、吉見百穴入口下車3分

城跡 城下を流れる市の川と自然が造り出した急崖を巧みに取り込んだ要害。

伝承 「風流歌合戦」「白米城伝説」「軍用犬伝説」など有名な伝説がある。

2. 鉢形城

- 所在地 大里郡寄居町鉢形
- 交通 JR 八高線・秩父鉄道・東武東上線・各寄居駅から徒歩約20分
- 城跡 北側に荒川の断崖、南側に深沢川を内堀に仕立てた天然の要害
- 伝承 ・ 文明五年(1473) 関東管領山内上杉氏家臣・長尾景春が築城。そのほかに源経基、畠山重忠らが築城あるいは居城説も残っている。
・ 小田原北条氏が関東進出に際し、北関東支配の拠点とする。

3. 川越城

- 所在地 川越市郭町2-13-1 (本丸御殿所在地)
- 交通 JR 川越線・東武東上線川越駅・西武新宿線本川越駅より巡回バス15分
- 城跡 台地の三方が低地に囲まれた地形で、川と湿地を利用し防備を固めた平城
- 伝承 ・ 長禄元年(1457) 太田道真・道灌父子により築城。小田原北条氏に攻められ落城(川越夜戦)。徳川時代(江戸時代)は譜代の藩主が城主となり明治まで存続。
・ 幕末最後の藩主・松平周防守康英(石見守康直を改名)は遣欧使節副使として活躍。

4. 岩槻城

- 所在地 さいたま市岩槻区太田
- 交通 東武野田線(東武アーバンパークライン) 岩槻駅から徒歩約25分
- 城跡 東側に元荒川が流れ舌状地中央部に本丸。大構え(総構え)を備える。江戸時代は新曲輪が藩政の中心となり、現在の岩槻公園は鍛冶曲輪跡。
- 伝承 築城は太田道灌築城説に対し、古河公方に与した忍城主・成田自耕斎正等の築城説が最近は有力。小田原北条氏関東進出で大幅な城の整備・拡張がなされる。(北条流築城術を駆使し、大構え・障子堀などを備えた第2の小田原城を目指す)

5. 忍城

- 所在地 行田市本丸
- 交通 秩父鉄道行田駅から徒歩約15分
- 城跡 低湿地、広大な沼に点在する島状の微高地や自然堤防を最大限に利用。
- 伝承 ・ 延徳三年(1491)忍大丞を襲った成田親泰の築城説に対し、文明十一年(1479) 親泰の父成田顕泰による築城説が有力。
・ 天正十八年(1590) 小田原の役で石田三成による忍城水攻めにまつわる逸話は特に有名。他に甲斐姫物語、足軽一揆等。

1. 松山城

天文六年七月十五日、河越の館破れて、主将朝定松山の城に入る。同月十八日、北条氏綱数万の兵を卒して松山へ寄るを聞えければ、城主難波田弾正、半途迄出で防戦ふといへども、利なくして松山に引入らんとする時、北条方の士、山中主膳、弾正を追ひかけて、

あしからじよかれとてこそたたかはめ何か難波のうらくづれ行く

と俳諧体の歌よミかけしに、難波田も名ある勇士なれば駒のかしらを引かへして、

君をおきてあだし心をわれもたば末の松山波もこえなん

古今集の歌を取あへず答しハ、主将朝定を松山に置いて、我此所にて討死せば末のまつ山波こゆべしとの心にて、当為即妙、懸引知れる勇者なりと、感ぜぬ者こそなかりけれ。

「武蔵三芳野名勝図会」(享和元年=1801) 名主・中島孝昌

2. 鉢形城

- ①・・・爲利運鉢形(景春)在城不可然候、所詮此時他國へ罷退、不存緩怠旨、奉懇望候者尤候、然者於道灌可致同心候、・・・

「太田道灌狀」(文明12年=1480)

②

襟帯山河好 雄視関八州
古城跡空在 一水尚東流

田山花袋の漢詩(大正7年4月作)

3. 川越城

石見守直ちに詰て曰く、『是れ未だ曾て宇内に見ざる所のもの、余は之に信を措く能はず、且夫れ省みられよ、貴國は宇内第一の大邦、日本は實に宇内の小邦なり、今や日本は小邦なからも、貴國と隣國の好みあるを以て、敢て交誼を修むる使節送る此の如し、然るを貴國は其の鷲鼻の慾を逞うして、小國の地を蠶食する野心を抱かんとは、その心の狼貧なる實に惡むへし、其の所爲の大國に似合ざる實に憫むへし、今や萬國に行はるゝ地圖を以て、皆虚妄なりといふ、之を虚妄なりとするも可なり、試みに問はん、聞く貴國の司天臺は實に世界第一を以て稱せられ、各國より茲に來り學ぶの士亦甚た多しと云ふ、果して然らば、貴國の司天臺に備ふる所の器機圖籍等に至りては、寸毫の詐りなかるへし、果して之を信據すへきや否や』と。イグナチーフ曰く、『實に然り、素より詐りあるへき筈なし』と。石見守曰く、『然らば請ふ共に貴國司天臺に至りて、其

の備ふる所の地球儀を検すへし、必ずや五十度を經界とすることを知るへし、苟も世界に第一と誇り、數多の學生を教ふる彼の司天臺にして、備ふる所の器械に詐りなしとせば、此の地圖の眞偽直ちに判然するを得へし、請ふ直に司天臺に行き、此の地圖の眞否を判すへし』と。イグナチーフ黙考すること小時、遂に其の言に服し、更に談判する所あらんとを約し且曰く、『貴官の樺太經界につき、調査する所の周到なりしは實に感服の外なし、余は貴官の爲めに更に國王に上奏して、五十度を以て經界となすの談判を爲すへし』と。

『幕末遣欧使節談判私記・第八章樺太經界の談判』尾間立顯著 民友社 大正8年10月 抜粋

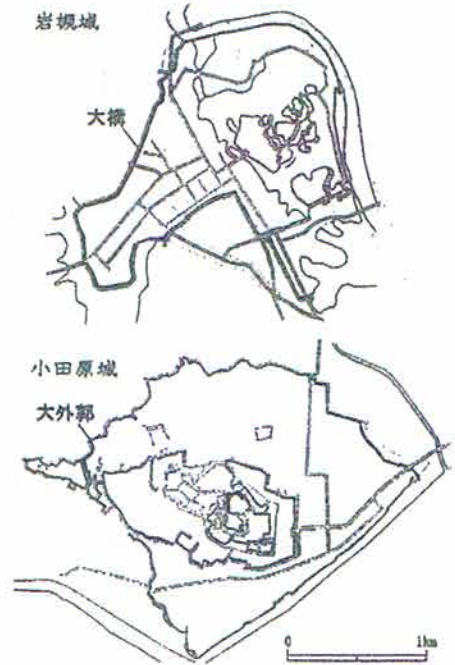
4. 岩槻城

亥
三月十九日
(天正十五年)
井草細谷分

引届、奉行ニ可渡者也、仍如件。
籠之材木被為取御用ニ人足五人、来廿一日より罷出、
中二日藤波山より奉行如申、材木請取、岩附大曲輪へ

印判状

(新編武蔵風土記稿)



岩槻城の大櫓と小田原城の大外郭

5. 忍城

① 忍之城之儀、以御手筋大方相濟ニ付而、先手之者可引取之由蒙仰候、則其分ニ申付候、然処諸勢水攻之用意候て、押寄儀も無之、御理ニまかせ有之事候、(中略)先可押詰候哉、御報待入候、猶口上申含候、恐々謹言

石田小 三成 (花押)

天正18年(1590)6月13日、浅野長政宛書状

② 水責め普請のこと、油断なく申し付け候は尤もに候、浅野弾正真田兩人、重ねて遣わし候間、相談し、いよいよ堅く申し付くべく候

秀吉

6月20日、石田三成宛書状

③ とかく水責仰せ付けらるる事に候間、其の段申し付くべく候也

秀吉

7月3日、浅野長政宛書状